

環境県民フォーラムだよ！

VOL. 55 2025年10月1日 発行

楽しくごみの事を学べるごみ処理施設 「やまとeco」を見学（資源活用分科会）

7月2日、5月より稼働した「山辺・県北西部広域環境衛生組合」が運営する「やまとeco」へ、資源活用分科会のメンバーを中心に総勢17名で見学に行ってきました。「やまとeco」は、大和高田市、天理市、山添村、三郷町、安堵町、川西町、三宅町、上牧町、広陵町、河合町の10市町村が共同で運営する新しいごみ処理施設です。施設は天理市にあり、「やまとecoリサイクルセンター（マテリアルリサイクル推進施設）」と「やまとecoクリーンセンター（エネルギー回収型廃棄物処理施設）」の二つの施設からできていて、展示啓発施設やごみを燃やした熱を利用した温浴施設などが併設されています。



リサイクルセンターごみアート前で記念撮影

やまとecoリサイクルセンター

1階入口には、ごみを使用したアート作品や木材を再利用した作品が展示されていました。また、自由に書籍が閲覧できるスペースもあり落ち着いて学習できる環境が作られていました。そして、災害時には緊急避難所としての役割も担っています。その一角に映像が上映できるスペース「ヌックシアター」があり、ビデオで「やまとeco」の概要の説明を受けた後、ガイドさんの案内で施設の見学をしました。



ヌックシアターでの説明

見学コースは3階にあり、ガラス越しに見える設備や工程の説明を受け、ストックヤードでの資源ごみの状況やプラットホームでの搬入車の様子、中央制御室、資源ごみの選別作業などを見学しました。タブレットが全員に配布され、バーチャル映像で臨場感ある現場を体験することができました。また、各コーナーにはデジタルサイネージでの説明もあり、ガイドさんがいなくても理解できるように配慮されていました。



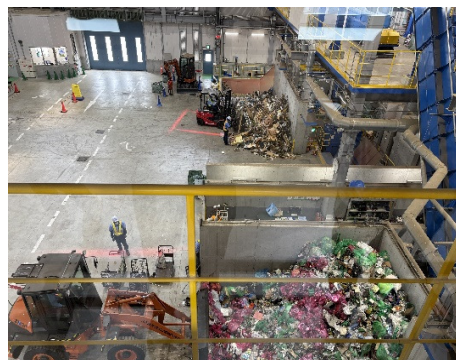
奈良県エコキャラクター な～らちゃん



タブレットを持って見学



資源ごみベルトコンベアー



不燃物・粗大ごみ受入ヤード

やまとecoクリーンセンター

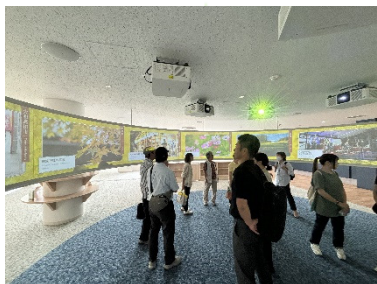
1日に284tの処理能力があり環境に配慮しながら安全で効率的にごみの処理を行う施設です。また、ごみの焼却時の熱を利用して高効率発電を行うとともに、4階には熱源を利用した温浴施設やフィットネスエリアが併設されています。

まず、1階エントランスホールでは、10市町村の風土を色で表した「希望の標」が目を引きました。3階は「ごみミュージアム」として、主要な設備や機械が見学できるファクトリー・ビジョンやコミュニティギャラリーなどがあります。コミュニティギャラリーには、施設の模型や地域の情報などが展示されていて、地域の四季折々の映像を全周円形スクリーンで鑑賞できる「万葉360°シアター」や2つのスクリーンで過去と未来の風土と自然環境を学べる「歴史タイムスコープ」などがあり、地域と環境の事を知る良い機会になりそうです。

また、キッズコーナーやベビーサロンも設置されており、家族で安心して楽しめる施設となっています。ファクトリー・ビジョンでは、大きく開いたガラス窓から、ごみピット内のごみと大型クレーンが稼働する様子や、蒸気タービンと発電機などの主要設備が観察できました。また、焼却炉に入ったごみはダイオキシン類の発生を抑制するために850℃以上の高温で焼却されますが、その燃焼の様子をLIVE映像で見る事が出来ます。地域の方には、自分たちの出したごみがどのように焼却されているのかをリアルタイムで目の前で見る事ができて貴重な体験になると思いました。また、ゲーム感覚でクレーン操作ができる「クレーン・シミュレーター」や、ハンドルを回して発電体験のできる「人カジェネレーター」などがあり体験型で楽しんで学べる工夫もされていました。



エントランスホールとキッズサロン



地域の四季の映像 万葉360°シアター



蒸気タービンと発電機



クレーン操作の体験ゲーム

今回、やまとecoのリサイクルセンター・クリーンセンターの見学を通じて、ごみの削減や分別・リサイクルなどの理解を深めるためには、身近に立ち寄れて楽しく学べる「やまとeco」のような施設が大変重要な役割を果たしてくれるのではないかと感じました。

施設見学に関するお問い合わせ(詳細はホームページをご確認ください)

山辺・県北西部広域環境衛生組合 やまとeco

〒632-0004 奈良県天理市櫛本町3246番地1

電話:0743-65-2001 FAX:0743-65-2020

【見学予約受付時間】9:00～21:00 (月曜定休・月曜が祝日の場合は翌平日)



やまとeco
ホームページ

賛助会員募集

奈良県環境県民フォーラムは賛助会員として活動をご支援いただける企業、団体等を募集しています。当フォーラムの活動をご理解いただき、賛助会員としてご支援下さいますよう、お願い申し上げます。

特典

1. 広報誌「フォーラムだより」等刊行物をお届けします。
2. ホームページに随時氏名(ご希望の方)を掲載いたします。
3. 主催事業(省エネクッキングなど)に優先的にご参加いただけます。

エネルギー 分科会

「DINS関西(株)バイオエタノール事業所」、 「大阪ガス(株)泉北第二工場」見学会を開催

3月6日、資源活用分科会とエネルギー分科会の共催で、DINS関西(株)バイオエタノール事業所、大阪ガス(株)泉北第二工場の見学会を開催し、奈良県環境県民フォーラム関係者25名が参加しました。



①DINS関西(株)バイオエタノール事業所(大阪府堺市)

廃木材、廃ジュース、廃アルコールを原料とした燃料用バイオエタノールを製造する世界で初めてのリサイクル施設を見学。エタノール原料に適さない廃木材はボイラー発電設備で燃焼し、蒸気と電気エネルギーとして回収・利用されています(余剰電力は売電)。資源をムダなく活用し、脱炭素社会実現に向けた具体的なソリューションを提供する事業を展開されていることがよく分かりました。参加者からは、「廃木材を利用する技術としてバイオマス発電を思い浮かべるが、エタノールを作る技術があるとは驚いた」等の声が寄せられました。

②大阪ガス(株)泉北第二工場(大阪府高石市)

都市ガスの原料となる液化天然ガス(LNG)の受入・貯蔵・気化設備等を見学。ガス科学館では、環境にやさしい天然ガスの特性や都市ガスが家庭に届くまでの工程を、体験型展示やクイズを通じて楽しく学びました。都市ガス供給の基幹施設の役割、エネルギーを安全かつ効率的に利用することの大切さ、さらには次世代のエネルギー教育の重要性について深く学ぶ機会となりました。参加者からは「タブレットを使ったクイズで理解が深まった」等の意見が寄せられました。

これからも廃棄物のリサイクルやエネルギーについての知見を深め、よりよい活動につなげていきたいと考えています。



小学生を対象にした環境学習を開催

7月8日、今回も五條市立五條南小学校の4年生を対象に環境学習を行いました。

同校は、2021年春、野原小学校、阪合部小学校、西吉野小学校の3校が統合して新しく生まれた学校です。車で国道24号線を走り、五條市本陣の交差点を左折、吉野川の鉄橋を渡った小高いところにあり静かな環境に恵まれています。同校では昨年も同じ内容の環境学習を実施していただいています。

前半は教室で浄化槽メーカーの方々に合併浄化槽のミニチュアを前に、浄化槽の働きを説明いただき、また、クイズ形式で水に関する質問への回答など子供たちの積極的な参加による学習ができました。

後半はエコライフ分科会のメンバーでもある清掃組合のみな様の協力でバキュームカーを運動場に持ち込んでいただきバキュームの強い吸引力の強さを実証していただき子供たちも楽しみながら学びました。

五條市には奈良県の「吉野川浄化センター」があり下水道が敷設されていますが、地形からか下水道使用率は奈良県平均より低く合併浄化槽の設置が望まれるところです。五條市を流れる吉野川はその水量の多さから非常にきれいな水に恵まれ、一部は奈良県北部へ分水され農業用水や生活用水として利用されています。



エコライフ 分科会

奈良県環境計画策定部会に佐藤代表委員が出席

奈良県の附属機関である奈良県環境審議会の環境計画策定部会に、当フォーラム佐藤代表委員が民間団体の代表として部会委員に指名されました。

この部会は次期(2026-2030年)奈良県環境総合計画を策定するために設置されたものです。

奈良県環境総合計画は奈良県環境基本条例に規定する基本計画であり、社会経済情勢の変化に対応しつつ、誰もが安心して快適に暮らすことのできる持続可能な地域づくりをより一層進めるため、環境面から、県民、NPO、企業・団体、行政等の各主体が積極的な連携、協力のもと、中長期的に取り組む指針として示すものです。

7月31日に開催された第1回の部会において、次期計画に係る骨子作成の方針について議論しました。佐藤委員は、人づくり・地域づくりに係る内容について、現在、実際に活動を行う「人」のモチベーションをいかに高めるかが大切であること、地域の人々のつながりを生かし環境問題に取り組むことが重要であることを意見し、当フォーラムの活動の基礎である「足元の『人づくり・地域づくり』」の促進を次期計画にも反映するよう要望しました。



現在の奈良県環境総合計画についてはこちらをご覧ください

<https://www.pref.nara.jp/60275.htm>



17 パートナシップで
目標を達成しよう



高野山金剛峯寺で菜種油奉納式を行いました

7月22日、「やまと菜の花ねっと」が高野山金剛峯寺で菜種油奉納式を行いました。奉納式は今年で11回目で、「大和の国・菜の花エコプロジェクト」が世話役となり、6団体15名が参加しました。

金剛峯寺岸本内事長から「どんなに良い活動であっても1年続けることはできるが、それを長く続けることは大変なことです。しかし、やり続けることがとても大切なことです。今後も次世代の子ども達に対し、その素晴らしい体験や学びの場を提供してってください。」とのありがたいお言葉を賜りました。今年も『自然を愛し、地域の歴史文化を愛し、世界の平和を願う』次世代を育み、持続可能な社会の実現に向けて「生涯ボランティア」の精神でSDGsを推進することをお誓いしました。



「脱炭素ゲームCN2050」にチャレンジ！

6月25日、ミーティングで奈良県環境カウンセラー協会が持参した「CN2050脱炭素ゲーム」を試用しました。



奈良環境カウンセラー協会で普及啓発のツールとして検討しているもので、2050年カーボンニュートラルに向けていかにCO2を減らすかを全員参加型で考えるゲームです。8歳以上、6人以内で行うものですが、結構奥が深くすぐに答えられないものも。楽しみながらも地球環境の深刻な現状も考えさせられる優れたものです。

自然環境セミナー「追分本陣講座」を開催！

5月11日、奈良追分コミュニティが「追分本陣講座」を行いました。

第一部は、元英国王室植物園職員の宇山恵子氏を講師に迎え、「準絶滅危惧種大和橘の再生に向けて」、第二部は、「昼食と大和橘茶とチンキ作り体験」を行いました。



自然環境
分科会



「やまと菜の花ねっと」

～菜の花だより・橘だより～



奈良フィールド (活動団体:大和の国・菜の花エコプロジェクト 事務局 宙塾)



奈良市地球温暖化対策地域協議会(通称NEW)の環境学習活動を支援する「大和の国・菜の花エコプロジェクト」や2022年よりNEW会員となった「奈良追分コミュニティ」並びに2023年よりNEW会員となったNALC(ニッポン アクティブ ライフ クラブ)の奈良県支部「ナルク奈良」の3団体が協力して、北永井と追分の2フィールドで、持続可能な循環型社会の構築を目指して活動を展開していきます。地元団体はじめ県内のNPO団体とも連携しながら、まずはお互いの情報共有やイベント等の広報、各団体の会員やボランティア募集などの協力体制を整えていくことを確認しました。

どの団体も抱える組織の高齢化や会員、ボランティアの減少に歯止めをかけ、シニア世代も人生100年時代を念頭に、体が動く限り、「元気に楽しく無理なく社会貢献」・「美しい故郷の自然と文化を次世代に」をモットーに頑張ります。

イベント情報 : 11月2日(日)10:00~12:30 「芋ほり・菜の花移植」



桜井フィールド (活動団体:さくurai菜の花プロジェクト)



松井桜井市長も入ってガッツポーズで記念写真



菜の花仲間の他団体の展示も



鹿対策を念入りに

3月23日、桜井市狛・岩坂地区で「読売の森植樹祭」と「自然環境セミナー&アースデイ奈良2025」を開催しました。紙の原料となる森林資源の再生を目指す「読売の森」は、読売新聞大阪本社が近畿・中国・四国圏内で初めて取り組んだプロジェクトです。来賓挨拶で松井正剛桜井市長は桜井市に決定して頂いたことに謝意を表しました。

その後、高さ2メートルの八重桜(関山)の苗木28本を植えました。鹿の食害対策をしっかりとしたので、来年の春には花の塩漬けができるかもしれません。

植樹後の、ナタネ油の天ぷら試食会&交流会(自然環境セミナー)も大いに盛り上がりしました。



葛城フィールド (活動団体:エコ葛城市民ネットワーク)

今年度も、菜の花プロジェクトをテーマとした環境教育「出前講座」を市内小学校(5校・4年生全クラス対象)で実施しています。

5月には、各小学校で「菜の花の刈り取り」を行いました。この菜の花は去年の11月に子どもたちが自分の手で植えたものであり、成長した菜の花を見て驚きつつも、自分のハサミを使って頑張って収穫しました。NPOは子どもを見守り、時には手助けや切り方のアドバイスをを行いました。



6月後半には、収穫した菜の花の「種落とし・搾油体験」を子どもたちと実施しました。まず菜の花の観察からはじまり、どのくらいたくさんの種が入っているかの比べあいをしました。次に裸足になった状態で菜の花を踏んでもらい、種落としを行い、子どもたちは初めての感触に怖がりながらも、最後にはキャーキャーと笑いながら楽しんでいました。その後、選別した種を搾油機に投入して、油が出てくるところを見たり、匂ったりして搾油体験をしてもらいました。NPO、小学校、市役所が連携した出前講座で、子どもたちも貴重な経験ができたと思います。また、4月5日に「菜の花まつり」を開催し、寄せ植えコンテストや環境パネル展、エコキャンドル作りのワークショップ等を実施しました。

山の辺の道ファンクラブ

昨年から植付けした菜の花が咲き誇る「菜の花祭り」を天理市内の景行天皇陵東側山の辺の道沿道の圃場で4月12日に開催しました。晴天に恵まれ、青空コンサートをイベントの目玉に、地元コーラスクラブさんや民謡クラブさん、西大寺ウクレレクラブさんたちの熱演を拝聴させて頂きました。菜の花祭りはアースデイ奈良2025「あちこち開催」協賛参加、天理市内の「森のようちえんウィズナチュラ」の園児や「まなびや」の学童の皆さんも参加して頂き、大いに会場を盛り上げていただきました。

今秋11月15日(土)・16日(日)に天理市で開催される「2025全国コットンサミットin天理」には、「綿の魅力と可能性の広がり」をSDGsの未来につなげよう」との趣旨に賛同し、参加しています。景行天皇陵の東側で山の辺の道沿道に「菜の花」の後地に「綿」を植付けて育成していますので、ぜひ、山の辺の道へ見に来てください。



菜の花畑の横でお店出し



青空コンサートに聞き入る参加者



森のようちえんウィズナチュラ
「春の親子おさんぽ会」の会場案内



橘プロジェクト (活動団体:なら橘プロジェクト推進協議会)

意外に思われるかもしれませんが、暑い盛りも橘の収穫に追われていました。これまで触れる機会が少なかったものの、橘プロジェクトの歴史の中では名わき役であるもう一つの橘、「真夏の果実」である四季橘についてご紹介させていただきます。

四季橘はマンダリンオレンジとキンカンとの掛け合わせと言われており、甘い香りと独特の酸味と苦みが特徴です。

台湾やフィリピンでは四季橘はカラマンシーと呼ばれ、シークワサーの約8倍のビタミンCやフロレスチンという成分が含まれ、抗酸化作用があるため、夏を乗り切るジュースとして飲まれているとのことです。

大和橘の復活を一念発起して始めた活動ですが、当初、間違えて植えたのが四季橘でした。そのため何か所かで四季橘と後で植えた大和橘が混在しています。日本の固有種として大和橘は大事なものですが、四季橘も国内で新鮮なものはほとんど手に入らないという意味でとても貴重です。

今春、残念ながら鉄砲虫にやられて数本枯れてしまいましたが、こちら数少ない貴重なものとして、これからも汗だくになりながら毎年収穫し続けたいと思います。



真夏の果実「四季橘」を収穫



酸味と苦みが特徴の四季橘の果肉



奈良県統一ブランド「奈乃葉菜油」
の天ぷらは大人気



満開の菜の花畑を楽しむファミリー



奈良追分コミュニティ

追分菜の花まつりを、4月12日・13日で開催しました。奈良県環境県民フォーラム自然体験教室、アースデイ奈良の「あちこち開催」にも参加しました。

満開の菜の花と写真を撮ったり、菜の花の天ぷらを楽しんだりしました。



フォーラムだよりの
バックナンバーはこちら

編集・発行: 奈良県環境県民フォーラム
【事務局】〒630-8501 奈良市登大路町30番地
奈良県水・大気環境課内
TEL:0742-27-8732 FAX:0742-22-1668

